

未来の自分からのアドバイス

21世紀、これからの主役となる分野として、ロボティクス、遺伝子工学、ナノテクノロジーが挙げられます。そこで、私は高齢化社会に突入した日本のためにも将来人と対話可能な実世界に対応した日常生活支援ロボットの開発に携わりたいと考えています。この目的のために逆算して今できることを着実にこなしていく事が必要だと考えられます。

まず、新たな製品、技術を世に送り出すためにはどれだけの需要が見込めるか、またどれだけ社会の役に立てるか、という事が非常に重要だと考えられます。つまり、新たな支援ロボットという市場を開拓するためには社会に受け入れてもらい、需要を増やしていく必要があります。そのために、私は人との繋がり、交流を通じた議論、情報交換に力を入れています。1つの例として、IEEEの活動が挙げられます。IEEEの活動を通して様々な分野の方々、異なる考えをもった方々との出会い、交流がありました。日々研究に追われている自分にとっては刺激的であり非常に有意義な時間を過ごすことができ、視野が広がりました。研究に没頭している間は一点集中で狭く深く学びますが、一度立ち止まり違った角度から再度自分自身の研究を見直すとそれまで見えていなかった世界が見えるということを経験することが出来ました。

次に技術的なことに関して述べると、私が大学で行いたい、またやらなければいけないこととして情報通信と智能ロボットの融合が挙げられます。通信技術が日々進歩し応用分野も広がっている中、ロボットにその技術を利用するという点に関しては遅れをとっています。確かに有線と違い、信頼面で劣っている無線技術は高い信頼性がよる給されるロボット制御にとっては犬猿されがちですが、有線では成しえないメリットが数多くあり、可能性も秘めています。また、開拓し切れていない分野であるので大きなビジネスチャンスにもなりえると思います。このような理由から私は学生の中に少しでも智能ロボットと無線技術を結び付けていきたいと考えています。

最後に、残り少ない大学生活には学生時代にしかできないことを思いっきりやろうと思っています。特に以下の3点には力を入れていきたいと考えています。1つは社会人になってからは経験しにくい失敗を体験するという事です。社会から見たらまだまだ半人前である分、社会人になってからはしにくい失敗も学生の間はまだ許されます。少し無茶なことをしてみるのもいいと思います。2つ目として少し考え、すぐ行動を起こすということです。経験値がまだ少ない自分にとっては結果がでるかでないかと悩むのではなくまずは行動を起こし第一歩を踏み出して見る事が重要だと考えています。結果や成果は行動とともに現れ、実際に動いてみないと見えてこないことが数多く存在します。3点目として自分が出来ることとやりたいことを出来る限り早い段階で見極めたいと考えています。この見極めは自分の将来の方向性に非常に重要役割を担っており、日々少しでも世界を変えていこうと思っている自分にとっては最重要事項です。